

女堀の経路

女堀は、赤城山南麓の前橋市止泉町から伊勢崎市田部井町（西国定）まで至る、総延長約13kmの大規模な灌漑用水路です。標高95mの等高線に沿うようにして女堀の経路が計画・掘削されていることから、緩やかな勾配の用水路とするために、赤城山南麓の複雑な地形の測量を行って女堀が掘削されたことが理解できます。

そのため女堀の掘削工事には、高度な土木技術を持った集団が関わっていたと考えられます。

女堀は未完成に終わりましたが、その後に岡登用水、八坂用水、大正用水が開削されたことを考えても、この地域が慢性的な水不足の地域であったことがわかります。

○岡登用水

寛文12年（1672）に代官岡上景能によって渡良瀬川から笠懸野へ引水された笠懸野御用水は、一時荒廃しましたが、明治6年（1873）に岡登用水として再興されました。

○八坂用水

宝永3年（1706）に完成した八坂用水は、伊勢崎藩小島武寛により、桃ノ木川で取水して前橋藩と伊勢崎藩境の神沢川に木製の樋（八坂樋）を渡した、総延長14.5km、堀幅3.3mの規模でした。大正15年（1926）には改修、延長され佐波新田用水として利用されています。

○大正用水

大正7年（1918）に前橋市田口町から伊勢崎市香林町の早川までの24kmに及ぶ大正用水が計画され、昭和27年（1952）に完成しました。大正用水の完成はこれまで赤城山南麓で抱えてきた水不足の課題を大きく改善し、その後の水田の増加と生産力の向上に大きな役割を果たしました。

- …推定ライン
- …国指定箇所
- …発掘調査箇所
- …用水路
- …湧水点

0 500 1000 1500 2000m